



会長就任挨拶

加賀こころの病院 蔭西 操

令和2年度より会長をつとめさせていただいております、医療法人社団長久会加賀こころの病院の蔭西です。みなさまには、日頃より当会の運営につきまして、多大なるご協力を賜り誠にありがとうございます。今回、くろーばーの誌面をお借りして、遅ればせながら就任の挨拶をさせていただきます。

私たち精神保健福祉士は、クライアントの社会的復権・権利擁護のための専門的・社会的活動を行う専門職です。これまで長きに渡り、長期入院者の退院促進、精神障害者の権利擁護と地域生活支援に取り組んできました。それらは未だに途上にあるものの、現在では社会情勢の大きなうねりを受け、私たちがかわるフィールドも保健・医療・福祉だけでなく教育や司法など多岐に広がっています。また、いずれの実践現場においても、クライアント一人ひとりの福祉ニーズに応じた個別支援のほか、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築、地域自立支援協議会への参画、地域生活拠点の構築等、精神保健福祉士が担う役割も大きくなってきています。

このような状況のなか発生した新型コロナウイルスの感染拡大は、クライアントだけではなく私たちの心身にも大きな影響を及ぼしています。日常業務の在り方は様変わりしました。オンラインでの面接や会議は便利な一方、直接会う機会がないことでストレスを感じている方も少なくないのではないのでしょうか。

しかし、このような状況下だからこそ、私たちの実践力が問われているのではないかと考えます。制限のある環境であっても、工夫しながらクライアントにかかわり続けることができているのでしょうか。またクライアントの権利を護ることができているのでしょうか。精神保健福祉士は、困難な状況を「クライアントとともに」解決することが責務であり、「クライアントとの協働」が専門性です。このような危機的状況の時こそ、クライアントと話し合いながら必要な取り組みを検討しなければならないと考えます。環境の変化に気をとられ、精神保健福祉士として大事なものを見失わないよう、日々の実践を今一度振り返る必要があるのではないかと思います。

前年度は、各種事業計画の変更や延期及び中止を余儀なくされ、参集する機会や人と人との直接的な対話・交流機会が減少し、会員のみなさんの情報交換や自己研鑽の機会を作ることも難しくなっておりました。今年度、各種研修やスーパービジョンは、オンラインの導入等開催方法を試行しながら、ソーシャルワーカーとして成長し続けるための場を作っていきたいと考えております。

これまでに経験のない社会情勢のなか、先が見えず困難なことも多いかと思いますが、石川県精神保健福祉士会は、今後も会員の皆さまの役に立つような活動を企画実施していきたいと思っております。会員一人ひとりの声が届くような、届けてみようと思っただけのような会となるよう、理事をはじめとし、各委員の方々と取り組んでいきます。今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申しあげまして挨拶とさせていただきます。

岡部病院 新型コロナウイルス クラスター発生を振り返って

岡部病院 舟田 淳子

昨年4月、当院で新型コロナウイルスのクラスターが発生したことにつきまして、多大なるご迷惑とご心配をおかけし、この場をお借りし深くお詫び申し上げます。また、多くの皆様方から様々な物資やお品、心温まる励ましのお言葉を賜り、心より深く感謝申し上げます。

クラスターが発生したその日を境に、まるで世界が一変して見えたことを今でも強く印象に残っています。強烈な恐怖の中で、茫然と立ち尽くす暇もなく、翌朝から右往左往しながらPSWとしてその方その方のご不安な気持ちを受け止め、お詫びと共に誠心誠意対応させていただきました。

私は当院新型コロナウイルス対策室の一員として、いしかわクラスター対策班のご指導の下、お問い合わせに対するQ&Aを作成する事や、外来患者様の濃厚接触者を特定し、保健所と連携し自宅待機と健康観察のご連絡をさせていただく等を行いました。PSW全体としてはPCR検査の実施等でご家族へのご説明等、連絡調整の役目を担いました。

病院が一丸となって徹底的な感染拡大防止策に取り組み始める中、我々PSWがまずやるべき事は、他職種同様医療従事者としての自身の感染防止策の徹底でした。「私たちが感染予防に対し、最大限の配慮と努力をすることが患者さんや職員、自分や家族を守ることになる」と自身の心に掲げて、看護師に標準予防策・コロナ感染対策をPSW全体にレクチャーしてもらい、一人一人が感染防止策を実践しました。清掃業者が入れなくなり、トイレや廊下・階段等は我々コメディカルが行いました。トイレはレッドゾーン（感染リスクが高い）のため、清掃の手順、PPEの着脱手技を学び行いました。「本来業務を超えて、ただただ病院機能を守りたい」その一心で皆が協力してくれたこと、普段通りの笑顔を見せて慣れない仕事をやってくれたこと・・・思い出だけで涙が出そうです。今振り返れば『複雑で毎日変わる状況を柔軟に受け入れて、本質を見失わずに臨機応変に創造的に』そんな当院のPSWの姿が在りました。特に病棟から出られなくなった患者様、これ以上の感染拡大を防ぐために必死に働いている病棟看護師さんに対し、「少しでも癒しを送りたい。何かできないか」と必死に考え生み出された『岡部ラジオ（音楽やメッセージを院内放送する）』の放送は、福祉職ならではの優しさと思いやり、人と人とのつながりを創造していくPSWの専門性が発揮された状況だったと思います。

クラスター終息後もまた違った意味で幾重もの大きな壁にぶち当たりました。それぞれの立場（職種）でそれぞれの傷跡が大きく、そこから抜け出すことも容易ではありません。そのような中でも私たち精神科病院に勤めるPSWの大きな役割である退院支援が、上手く調和を図りながら前を向いていきたい。そのためにはPSW一人一人の柔軟性・臨機応変さ・創造性を強みとし、新たな退院支援の形を生み出せるよう日々学ばせていただきながら患者さん利用者さんと共に在りたい、と感じている今日この頃であります。

最後に、同じ課題を持ち日々悩んでこの状況に立ち向かっていらっしゃる皆さま、無理をせず、どうぞご自愛くださいませ。またこの度このような情報発信の機会を頂き、大変有難く感謝申し上げます。



PPEフル装備中

岡部ラジオの様子

気持ちを共有し、励まし合いました

新入会紹介

新たに入会された方をご紹介します

高松病院 浦中 卓也さん



令和2年度より石川県精神保健福祉士会に入会しました浦中と申します。以前は他県の精神科病院で勤務していましたが、令和2年4月より現在の職場で勤務しています。

日々患者様と関わる中で、「患者様がなぜ困っているのか」その背景に何があるのかを考えながら業務に携わっています。個人の問題は、社会構造・環境の問題が絡んでいる場合もあります。社会にまでアプローチできるソーシャルワーカーを目標に、日々奮闘していきたいと考えております。

今後皆様にはお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

矢田野ファクトリー 要明 美香さん



令和2年度より石川県精神保健福祉士会に入会させていただきました要明と申します。以前は異業種で働いていましたが、令和2年4月に矢田野ファクトリーに入職し、9月から出向で加賀こころの病院で勤務をしています。

この1年地域、病院で働き、多くの経験ができ学びが多かったと感じると同時に、自分に足りない物を実感することも多々ありました。今後も理想とするPSWになれるよう、自己研鑽に努める所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

初任者研修

今年度はコロナウイルスの影響でオンラインでの研修となりました。主催者側と参加者側でそれぞれ感想をいただきました。

〈主催者側〉

今回の初任者研修は、コロナ禍によりZoomでの開催となりました。企画会議や事前打ち合わせもオンライン。例年とは異なる動きが多く、ITに苦手意識のある私は正直不安でした。

しかし、企画メンバーで研修の進め方やZoomの使い方を話し合い、みんなで協力して無事に研修を開催できました。「グループ分けもできるなんてZoomってすごい！」と感動しました。直接顔を合わせて交流できないのは残念ですが、研修員として皆さんと学び合う機会をまた作っていただければと思います。

(相談支援センターなごみ 宇野 結貴さん)

〈参加者〉

今回の研修に参加して改めて自分のかかわりを振り返り、また、今後どのようにかかわっていけば良いかを考えるきっかけになりました。

特に印象に残ったのは「アセスメントの焦点は人と状況性の全体性」という部分です。

私は本人の言葉に焦点を置いていましたが、今の本人を理解するうえで大切な考えだと学べました。研修に参加して、私は「なぜそう考えているのか」といった視点がまだ身につけていないと感じ、とても参考になりました。

今回の研修で学んだことを実際に生かしていけるようにしたいと思います。

(ときわ病院 坂尻 のぞみさん)



こんにちは。新理事に就任いたしました松原愛育会 自立就労支援センターいしびきの中村みづ穂です。

コロナ、ジェンダー、貧困など、PSWの専門性が求められることが増えていると感じています。微力ですが、会員の皆様のお力になれるよう努力します。



研修担当の理事として、県士会の活動に携わることになりました寺本庸介です。若輩者ですがよろしくお願いいたします。白山市の基幹相談支援センターに所属しています。

県士会のゆるキャラ枠として、生田理事の後釜を虎視眈々と狙っていますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



～病院のコロナ対策～

・面会が原則禁止、外来患者様への検温や体調確認

入院患者様との面会・外出・外泊が原則禁止としています。

(フェーズによっては病院前で面会、散歩ができる所も)

来院者には体温測定を行っています。

・電話や代理受診が可能に

電話での受診を行っています。

また高齢者や基礎疾患がある方や安定状態にある患者様を対象として

家族や施設職員の代理受診を行っています。

・病院外来と病棟のゾーニング開始

外来と病棟でのゾーニングを実施しています

また発熱者には別室待機をお願いすることや感染対策をしたスタッフが受診の対応を行っています。

・オンライン面会の実施

ご家族との交流も大切にさせていただきたいことより、オンラインでの面会を行っています。

・換気対策

換気を徹底しています。時間毎に換気を促す放送が流れます。

・食事対策

時間を分けて食事をとっています。また静かに話をせず食事を行っています。



【編集後記】会報誌くろーばー20号の発行が遅れまして申し訳ございません。まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大が続いていますが、コロナに負けずみんなの力でこの難局を乗り越えましょう！（K）